

# 社 会

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数 650人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	9	1.4
80～89	53	8.2
70～79	91	14.0
60～69	90	13.8
50～59	119	18.3
40～49	118	18.2
30～39	77	11.8
20～29	69	10.6
10～19	21	3.2
1～9	3	0.5
0	0	0.0

\*合格者の中から、無作為に抽出した650人(13.0%)の結果である。

\*%の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	(1)	97.3	
	(2)	77.4	
	(3)	89.7	
	(4)	53.0	
	(5)	49.6	
	2	(1)	73.5
		(2)	68.3
		(3)	記号 33.5 理由 35.6
		(4)	60.2
		(5)	ア 62.9 イ 67.3
小計		62.3	
2	(1)	84.5	
	(2)	56.1	
	(3)	59.9	
	(4)	24.2	
	(5)	40.0	
	2	(1)	23.7
		(2)	35.0
		(3)	65.5
		(4)	66.7
		(5)	57.9
小計		52.2	

大問	小問	正答率	
3	(1)	30.2	
	(2)	47.4	
	(3)	73.7	
	(4)	ア	34.8
		イ	32.2
	(5)	ウ	49.5
		エ	54.1
	2	(1)	67.1
		(2)	58.5
		(3)	65.7
(4)		ア	65.7
		イ	40.0
(5)		ウ	25.9
		エ	17.8
小計		45.6	
4		(1)	81.2
		(2)	41.5
	(3)	61.8	
	(4)	22.0	
小計		45.3	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	地理的分野	71.5	54.9	61.8	58.5	62.3
2	歴史的分野	67.3	61.6	56.8	60.5	52.2
3	公民的分野	59.4	52.3	54.9	57.0	45.6
4	3分野融合	72.9	31.0	68.9	43.8	45.3

## 2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点<sup>(※)</sup>は、51.0点で昨年度と比べ下降した(昨年度54.9点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者5,010人のものである。

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の23.6%で、昨年度に比べ減少した(昨年度29.6%)。40点未満の人数は全体の26.1%で昨年度に比べ増加した(昨年度20.1%)。平均点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は4問で、資料を用いて基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった(1の1(1)、1(3)、2の1(1)、4の(1))。正答率40%未満の問題数は11問と増加し、基礎的・基本的な知識・理解の定着(2の2(1)、3の1(1))や、文化面も含めた各時代の特色を理解する能力に加えて(2の1(4))、資料から考察したことを表現する力をみる問題の正答率が低かった(1の2(3)、3の1(4)、2(5)、4(4))。

〈表3〉について、分野別の正答率は地理的分野が高く、公民的分野と3分野融合問題が低かった。昨年度との比較では、地理的分野、3分野融合問題が上がり、歴史的分野、公民的分野は下がった。

### 3 標準解答及び大問ごとのねらい

#### 1 〈標準解答〉

1	(1)	太平洋	(2)	ウ	(3)	イ	(4)	(例) 標高が高い	
	(5)	(例) バイオエタノールはガソリンよりも価格が安く、さとうきびが大気中の二酸化炭素を吸収するため、地球温暖化の対策となるから。							
2	(1)	やませ	(2)	A	(3)	記 号	ア	理 由	(例) 舞鶴市は日本海側の気候で、 ----- 冬の降水量が多いから。
	(4)	エ	(5)	ア	(例) 安心して安全である			イ	(例) 販売量や売上額をのばしている

#### 〈ねらい〉

学校における生徒の具体的な調査活動の場面を設定し、「人口と面積が上位の国」や「リアス海岸のある都道府県」というテーマで作成した資料を題材にした。それらを基に、世界と日本の地域構成を大観し、世界と日本人々の生活や環境の多様性などの地域的特色を理解する基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等をみる。

#### 2 〈標準解答〉

1	(1)	ウ	(2)	律令 国家	(3)	(例) 渡来人の子孫によってつくられた	
	(4)	イ	(5)	(例) アジアに宣教師を派遣して、キリスト教徒を増やす			
2	(1)	ア	ウ	(2)	殖産興業	(3)	エ
	(4)	(例) 軍事費が増加したことによって、重化学工業が発展した					
	(5)	(例) おもなエネルギー源が石炭から石油にかわり、稼働する炭鉱の数が減少したから。					

#### 〈ねらい〉

「日本の文化遺産」をテーマに、近世までの文化遺産と、近代産業の発展と関わりの深い日本の世界遺産について作成した資料を題材にした。それらを基に、各時代の特色を踏まえながら、我が国の伝統と文化の特色、国際関係や文化交流について、基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、歴史的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等をみる。

**3** 〈標準解答〉

1	(1)	国民審査	(2)	ウ	(3)	ア
	(4)	ア	(例) 当選に反映されない票が多く	イ	(例) 多数決	
	(5)	ウ	(例) 財源の増加	エ	(例) 地域の特産品のアピール	
2	(1)	累進課税	(2)	ア	(3)	エ
	(4)	ア	(例) 老年人口が増加するので増える	イ	(例) 生産年齢人口が減少するので大きくなる	
	(5)	ウ	(例) サービスの拡大	エ	(例) 情報を分析した商品の効率的な管理	

〈ねらい〉

「国民が政治に参加する権利」をテーマに調べた資料、また、「国民経済と政府」というテーマで作成した資料を題材にした。それらを基に、国民の政治参加、国や地方公共団体の果たす役割、企業の役割などについて必要な基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等をみる。

**4** 〈標準解答〉

(1)	イ	(2)	エ → ア → イ → ウ	(3)	循環 型社会
(4)	(例) 農民が商品作物であるわたを栽培し、わたからつくられた西日本などの木綿が大阪に運ばれた				

〈ねらい〉

「県木フェニックスの制定50周年」を題材に、社会科の3分野を融合する視点から、世界や日本について学習する場面を設定した。それらを基に、基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等をみる。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題形式			評価の観点			正答率	
			記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断 表現	資料 活用 の 技能		
1	1	(1)	太平洋の位置について理解している。		○		●		97.3	
		(2)	資料から人口と面積の上位5か国の地域的特色を判断することができる。	○			●	●	77.4	
		(3)	資料から4か国の特徴を読み取り、その中からアメリカを判断することができる。	○			●	●	89.7	
		(4)	キトとマナオスの気候が異なる理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	53.0
		(5)	2つの資料から、フレックス車の生産台数が増えた理由を、環境問題を関連付けて考察し、説明することができる。			○		●	●	49.6
	2	(1)	東北地方の自然環境について理解している。		○		●		73.5	
		(2)	資料から1府3県に関する自然環境の特徴を読み取り、その中から三重県を判断することができる。	○			●	●	68.3	
		(3)	日本海側の気候の特色を、資料から降水量と関連付けて考察し、説明することができる。	○		○		●	●	記33.5 理35.6
		(4)	資料から三重県に関する工業の特徴を読み取ることができる。	○			●		60.2	
		(5)	宮崎県の農業の特色について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ア62.9 イ67.3
2	1	(1)	弥生時代に区分される遺跡と人物を理解している。	○			●		84.5	
		(2)	律令国家の政治のしくみについて理解している。		○		●	●	56.1	
		(3)	飛鳥時代の日本と韓国の仏像が似ている理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○	●	●	59.9	
		(4)	鎌倉時代の仏教に関するできごとについて理解している。	○			●		24.2	
		(5)	オランダが日本との貿易を許可された理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	40.0
	2	(1)	雄藩及び藩閥政治について理解している。	○			●		23.7	
		(2)	殖産興業について理解している。		○		●		35.0	
		(3)	八幡製鉄所が現在の北九州市に建設された理由について、資料から判断することができる。	○				●	●	65.5
		(4)	1930年代の日本の工業の変化について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	66.7
		(5)	端島炭坑の住民がいなくなった理由について、資料を基に考察し、日本の経済的背景から説明することができる。			○		●	●	57.9
3	1	(1)	国民審査について理解している。		○		●		30.2	
		(2)	国会の働きについて具体的事例を通して理解している。	○			●		47.4	
		(3)	ノーマライゼーションについて理解している。	○			●	●	73.7	
		(4)	小選挙区制の特徴について、具体的事例を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ア34.8 イ32.2
		(5)	ふるさと納税の利点について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ウ49.5 エ54.1
	2	(1)	累進課税について理解している。		○		●		67.1	
		(2)	公企業と私企業のちがいについて、具体的事例を通して理解している。	○			●		58.5	
		(3)	不景気のときに政府が行う財政政策について、資料を基に考察し、判断することができる。	○			●	●	65.7	
		(4)	将来の社会保障給付費の総額と負担について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ア65.7 イ40.0
		(5)	コンビニエンスストアの販売額と店舗数の増加の理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ウ25.9 エ17.8
4	融合	(1)	正距方位図法の読み取りを行うことができる。	○			●	●	81.2	
		(2)	木造船と日本の歴史との関わりの流れについて、具体的事例を通して理解している。	○			●	●	41.5	
		(3)	循環型社会について理解している。		○		●		61.8	
		(4)	17世紀以降の大阪で綿織物が広まっていた理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	22.0